

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-70224

(P2001-70224A)

(43) 公開日 平成13年3月21日 (2001.3.21)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード (参考)
A 4 7 L 25/00		A 4 7 L 25/00	D 2 D 0 0 6
A 4 7 K 3/00		A 4 7 K 3/00	Z 3 B 0 7 4
A 4 7 L 13/10		A 4 7 L 13/10	E
13/257		13/257	

審査請求 有 請求項の数 2 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-255106

(22) 出願日 平成11年9月9日 (1999.9.9)

(71) 出願人 000178583

山崎産業株式会社

大阪府大阪市浪速区下寺3丁目18番7号

(72) 発明者 中村 和夫

大阪市浪速区下寺3丁目18番7号 山崎産業株式会社内

(72) 発明者 奥田 朋義

大阪市浪速区下寺3丁目18番7号 山崎産業株式会社内

(74) 代理人 100080746

弁理士 中谷 武嗣

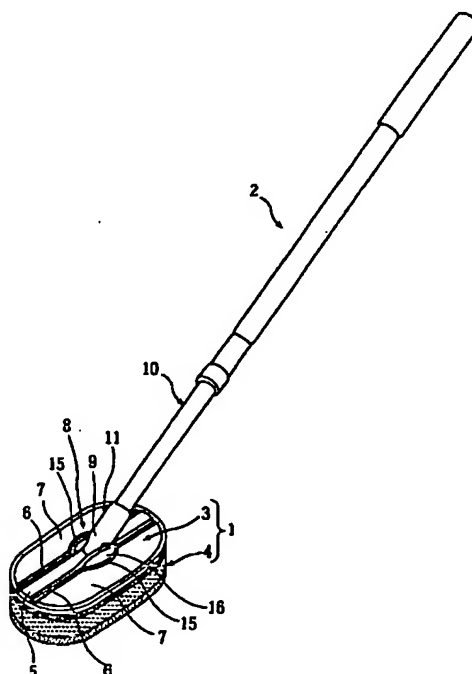
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 浴槽洗い具

(57) 【要約】

【課題】 浴槽の曲面部を洗うことのできる浴槽洗い具を提供する。

【解決手段】 洗い本体部1と柄部2とを有する。洗い本体部1が、柄部2に連結された板片3と、板片3に着脱自在に固着されたスポンジ体4と、から成る。板片3は、中間片部5と、左右側方片部7、7と、から成り、薄肉ヒンジ部6、6を介して上方へ折曲げ可能に連結されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 洗い本体部1と柄部2とを有する浴槽洗い具に於て、

上記洗い本体部1が、上記柄部2に連結された板片3と、該板片3に固着されたスポンジ体4と、から成り、さらに、上記板片3が、上記柄部2に連結される中間片部5と、該中間片部5に対して薄肉ヒンジ部6、6を介して上方へ折曲げ可能に連設された左右側方片部7、7と、から成ることを特徴とする浴槽洗い具。

【請求項2】 洗い本体部1と柄部2とを有する浴槽洗い具に於て、

上記洗い本体部1が、上記柄部2に連結された板片3と、該板片3に固着されたスポンジ体4と、から成り、さらに、上記板片3と柄部2とを連結する連結部8が、前後いずれかの一方向へは垂直から略水平状までの略90度の揺動が可能であって、他方向へは垂直から所定鋭角 θ までの揺動のみを許容するように枢結する非対称揺動規制枢結手段Mから成ることを特徴とする浴槽洗い具。

【請求項3】 洗い本体部1の板片3とスポンジ体4が、着脱自在に面状ファスナーを介して相互に固着されている請求項1又は2記載の浴槽洗い具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、浴槽洗い具に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の浴槽洗い具は、スポンジ体と、柄部と、が、着脱不可、かつ、揺動不可に固着されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、スポンジが柄部に対して固定されているため、力を効率良く伝達するのが困難な場合があった。また、曲面部を洗うためには、スポンジ体が板片（プレート部）に固着されているので変形しにくく、洗い残しが生じた。また、（スポンジ体は、脱着不可能であるため、）異種のスポンジ体との互換性がなく、不便であった。また、浴槽の清掃面に対して、柄部の角度を多様に変化させなければならず、無理な姿勢をとる必要があった。

【0004】そこで、本発明は、力を効率良く伝達することのできる浴槽洗い具を提供することを目的とする。また、容易に曲面部を洗うことのできる浴槽洗い具を提供することを目的とする。また、1本の柄部に対して、複数のスポンジ体を互換的に取付けて使用することができる浴槽洗い具を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上述の目的を達成するために、本発明に係る浴槽洗い具は、洗い本体部と柄部とを有する浴槽洗い具に於て、上記洗い本体部が、上記柄部に連結された板片と、該板片に固着されたスポンジ体

と、から成り、さらに、上記板片が、上記柄部に連結される中間片部と、該中間片部に対して薄肉ヒンジ部を介して上方へ折曲げ可能に連設された左右側方片部と、から成るものである。

【0006】また、洗い本体部と柄部とを有する浴槽洗い具に於て、上記洗い本体部が、上記柄部に連結された板片と、該板片に固着されたスポンジ体と、から成り、さらに、上記板片と柄部とを連結する連結部が、前後いずれかの一方向へは垂直から略水平状までの略90度の揺動が可能であって、他方向へは垂直から所定鋭角までの揺動のみを許容するように枢結する非対称揺動規制枢結手段から成るものである。なお、洗い本体部の板片とスポンジ体が、着脱自在に面状ファスナーを介して相互に固着されているも好ましい。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、実施の形態を示す図面に基づき、本発明を詳説する。

【0008】図1及び図2は、本発明の実施の一形態を示し、この浴槽洗い具は、洗い本体部1と柄部2とを有する。洗い本体部1は、柄部2に連結される板片3と、板片3に着脱自在に固着されたスポンジ体4と、から成る。すなわち、スポンジ体4を取外して、スポンジ体4のみを（直接手で持って）使用することができる。

【0009】図3に示すように、スポンジ体4は、面状ファスナーを介して、板片3に着脱自在に固着されている。すなわち、板片3が、下面に複数の小係止片12…を有するとともに、スポンジ体4が、上面に（小係止片12…に係止する）複数の略環状係止糸13…を有する。

【0010】一揃えのスポンジ体4…を選択的に、板片3に固着するように構成するも好ましい。この場合、同一の柄部2を使用したままで、被洗い面（清掃面）や汚れの種類、程度等に応じて、適切なスポンジ体4を選択して使用することができる。

【0011】図2及び図3に示すように、板片3は、柄部2に連結される中間片部5と、中間片部5に対して薄肉ヒンジ部6、6を介して上方へ折曲げ可能に連設された左右側方片部7、7と、から成る。つまり、一体成型されている。浴槽の隅部の凹面を洗うときに、図4に示すように、左右側方片部7、7の一方又は両方が上方へ折曲がるので、スポンジ体4が凹面に沿って（下方凸面状に）折曲がり、容易に洗うことができる。

【0012】図5～図7に於て、板片3と柄部2とを連結する連結部8は、前後いずれかの一方向へは垂直から略水平状までの略90度の揺動が（図7参照）可能であって、他方向へは垂直から所定鋭角 θ までの揺動（図6参照）のみを許容するように枢結する非対称揺動規制枢結手段Mから成る。

【0013】すなわち、柄部2は、柄部本体10と、柄部本体10が挿入されて、柄部本体10を板片3に枢着する枢結部材11から成る。枢結部材11は、下端に、柄部2が板

片3に対して所定鋭角 θ となるときに板片3と当接する当接部9を有する。

【0014】図5の通常の使用状態では、柄部2を下方へ押圧すると、板片3の下面に略均等に荷重E…が伝達されるので、全面を均一に洗うことができる。また、図6のように、当接部9が板片3と当接した状態で柄部2を下方へ押圧すると、板片3の前後方向——当接部9側——に力を効率良く集中させることができる。すなわち、集中的に大きな荷重Fをかけて浴槽の部分的な汚れを集中して洗うことができる。

【0015】なお、本発明は、設計変更可能であって、例えば、板片3とスポンジ体4とは、面状ファスナー以外の構造にて着脱自在とされるも良い。また、板片3は、折曲げ不可であるも良い。なお、図1と図2に示すように、柄部2は伸縮自在な構造とすれば、使用条件・使用箇所に対応して使用し易い利点がある。

【0016】例えば、浴室の天井面や壁面も自由に洗い得る。そして、板片3に、連結部8に対応して、弧状スリット15、15を形成して、連結部8の軸部取付部位の補強部16、16を形成し、かつ、左右側方片部7、7の（ヒンジ部6廻りの）揺動を容易とするも望ましい（図1、図2参照）。

【0017】

【発明の効果】本発明は、上述の如く構成されるので、以下に記載する効果を奏する。

【0018】（請求項1によれば）板片3が、浴槽の隅部の凹面形状に柔軟に対応して、変形し易く、ムラなく隅々まで美しく洗うことができる。

【0019】（請求項2によれば）通常は柄部2と洗い本体部1が、非対称揺動規制枢結手段Mを介して、自由

に揺動しつつ洗うことができるので、様々な角度の清掃面に対応できる。また、清掃面に強くスポンジ体4を当てて洗うことができる。すなわち、略一箇所に力を集中させることができ、取れにくい汚れを洗うのに好適である。

【0020】（請求項3によれば）柄部2を取外して、スポンジ体4のみでも使用することができるので、至便である。また、スポンジ体4が長時間使用後に、寿命がきたら、スポンジ体4のみを交換すれば良く、経済的である。そして、簡単にスポンジ体4の脱着を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】斜視図である。

【図2】分解図である。

【図3】断面正面図である。

【図4】断面正面図である。

【図5】断面側面図である。

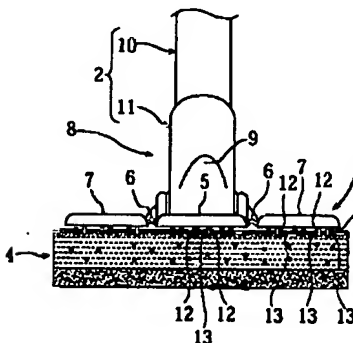
【図6】断面側面図である。

【図7】断面側面図である。

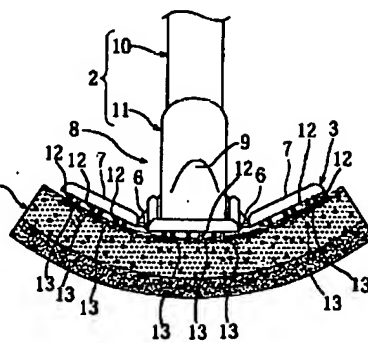
【符号の説明】

- 1 洗い本体部
- 2 柄部
- 3 板片
- 4 スポンジ体
- 5 中間片部
- 6 ヒンジ部
- 7 左右側方片部
- 8 連結部
- M 非対称揺動規制枢結手段
- θ 所定鋭角

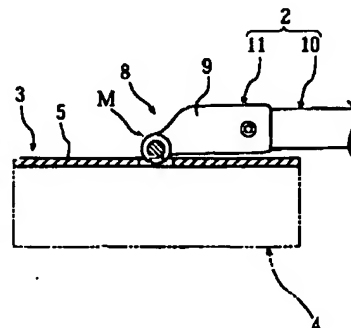
【図3】



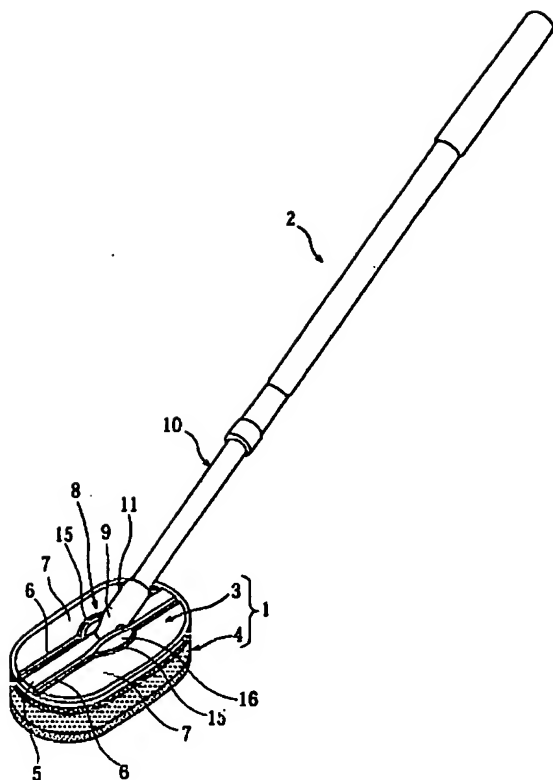
【図4】



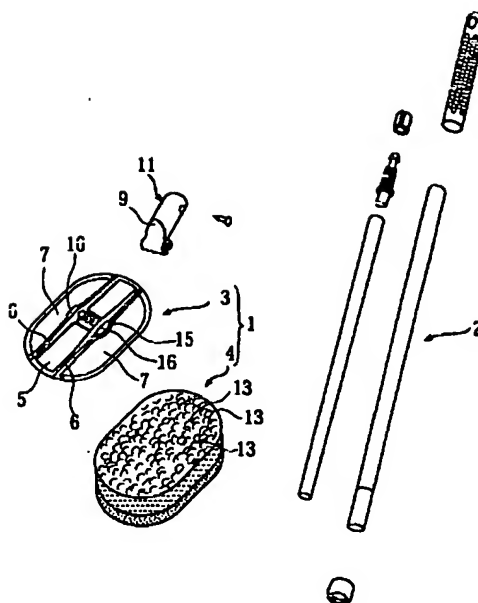
【図7】



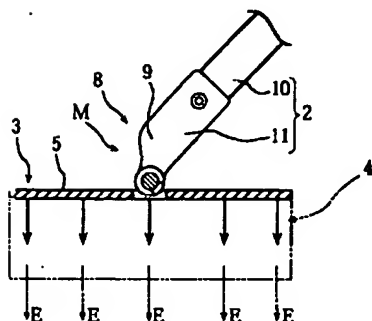
【図1】



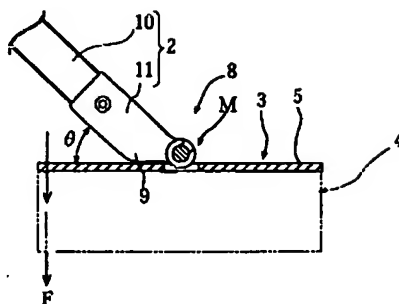
【図2】



【図5】



【図6】



【手続補正書】

【提出日】平成12年8月9日(2000.8.9)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正内容】

【書類名】明細書

【発明の名称】浴槽洗い具

【特許請求の範囲】

【請求項1】 洗い本体部1と柄部2とを有する浴槽洗い具に於て、
上記洗い本体部1が、上記柄部2に連結された板片3

と、該板片3に固着されたスポンジ体4と、から成り、さらに、上記板片3と柄部2とを連結する連結部8が、前後いずれかの一方へは垂直から略水平状までの略90度の揺動が可能であって、他方向へは垂直から所定鋭角 θ までの揺動のみを許容するように枢結する非対称揺動規制枢結手段Mから成り、しかも、上記板片3が、上記柄部2に連結される中間片部5と、該中間片部5に対して薄肉ヒンジ部6、6を介して上方へ折曲げ可能に連設された左右側方片部7、7と、から成り、さらに、上記板片部3に於て、上記連結部8に対応して、弧状スリット15、15を形成して、該連結部8の軸部取付部位の補強部16、16を形成し、かつ、上記左右側方片部7、7の薄肉ヒンジ部6廻りの上方への折曲げを容易としたことを、特徴とする浴槽洗い具。

【請求項2】 洗い本体部1の板片3とスポンジ体4が、着脱自在に面状ファスナーを介して相互に固着されている請求項1記載の浴槽洗い具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、浴槽洗い具に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の浴槽洗い具は、スポンジ体と、柄部と、が、着脱不可、かつ、揺動不可に固着されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、スポンジが柄部に対して固定されているため、力を効率良く伝達するのが困難な場合があった。また、曲面部を洗うためには、スポンジ体が板片（プレート部）に固着されているので変形しにくく、洗い残しが生じた。また、（スポンジ体は、脱着不可能であるため、）異種のスポンジ体との互換性がなく、不便であった。また、浴槽の清掃面に対して、柄部の角度を多様に変化させなければならず、無理な姿勢をとる必要があった。

【0004】そこで、本発明は、力を効率良く伝達することのできる浴槽洗い具を提供することを目的とする。また、容易に曲面部を洗うことのできる浴槽洗い具を提供することを目的とする。また、1本の柄部に対して、複数のスポンジ体を互換的に取付けて使用することができる浴槽洗い具を提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上述の目的を達成するために、本発明は、洗い本体部と柄部とを有する浴槽洗い具に於て、上記洗い本体部が、上記柄部に連結された板片と、該板片に固着されたスポンジ体と、から成り、さらに、上記板片と柄部とを連結する連結部が、前後いずれかの一方へは垂直から略水平状までの略90度の揺動

が可能であって、他方向へは垂直から所定鋭角までの揺動のみを許容するように枢結する非対称揺動規制枢結手段から成り、しかも、上記板片が、上記柄部に連結される中間片部と、該中間片部に対して薄肉ヒンジ部を介して上方へ折曲げ可能に連設された左右側方片部と、から成り、さらに、上記板片部に於て、上記連結部に対応して、弧状スリットを形成して、該連結部の軸部取付部位の補強部を形成し、かつ、上記左右側方片部の薄肉ヒンジ部廻りの上方への折曲げを容易としたものである。なお、洗い本体部の板片とスポンジ体が、着脱自在に面状ファスナーを介して相互に固着されているも好ましい。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、実施の形態を示す図面に基づき、本発明を詳説する。

【0007】図1及び図2は、本発明の実施の一形態を示し、この浴槽洗い具は、洗い本体部1と柄部2とを有する。洗い本体部1は、柄部2に連結される板片3と、板片3に着脱自在に固着されたスポンジ体4と、から成る。すなわち、スポンジ体4を取外して、スポンジ体4のみを（直接手で持って）使用することができる。

【0008】図3に示すように、スポンジ体4は、面状ファスナーを介して、板片3に着脱自在に固着されている。すなわち、板片3が、下面に複数の小係止片12…を有するとともに、スポンジ体4が、上面に（小係止片12…に係止する）複数の略環状係止糸13…を有する。

【0009】一揃えのスポンジ体4…を選択的に、板片3に固着するように構成するも好ましい。この場合、同一の柄部2を使用したままで、被洗い面（清掃面）や汚れの種類、程度等に応じて、適切なスポンジ体4を選択して使用することができる。

【0010】図2及び図3に示すように、板片3は、柄部2に連結される中間片部5と、中間片部5に対して薄肉ヒンジ部6、6を介して上方へ折曲げ可能に連設された左右側方片部7、7と、から成る。つまり、一体成型されている。浴槽の隅部の凹面を洗うときに、図4に示すように、左右側方片部7、7の一方又は両方が上方へ折曲がるので、スポンジ体4が凹面に沿って（下方凸面状に）折曲がり、容易に洗うことができる。

【0011】図5～図7に於て、板片3と柄部2とを連結する連結部8は、前後いずれかの一方へは垂直から略水平状までの略90度の揺動が（図7参照）可能であって、他方向へは垂直から所定鋭角 θ までの揺動（図6参照）のみを許容するように枢結する非対称揺動規制枢結手段Mから成る。

【0012】すなわち、柄部2は、柄部本体10と、柄部本体10が挿入されて、柄部本体10を板片3に枢着する枢結部材11から成る。枢結部材11は、下端に、柄部2が板片3に対して所定鋭角 θ となるとときに板片3と当接する当接部9を有する。

【0013】図5の通常の使用状態では、柄部2を下方

へ押圧すると、板片3の下面に略均等に荷重E…が伝達されるので、全面を均一に洗うことができる。また、図6のように、当接部9が板片3と当接した状態で柄部2を下方へ押圧すると、板片3の前後一方向——当接部9側——に力を効率良く集中させることができる。すなわち、集中的に大きな荷重Fをかけて浴槽の部分的な汚れを集中して洗うことができる。

【0014】なお、本発明は、設計変更可能であって、例えば、板片3とスポンジ体4とは、面状ファスナー以外の構造にて着脱自在とされるも良い。なお、図1と図2に示すように、柄部2は伸縮自在な構造とすれば、使用条件・使用箇所に対応して使用し易い利点がある。

【0015】例えば、浴室の天井面や壁面も自由に洗い得る。そして、板片3に、連結部8に対応して、弧状スリット15、15を形成して、連結部8の軸部取付部位の補強部16、16を形成し、かつ、左右側方片部7、7の（ヒンジ部6廻りの）揺動を容易とする。

【0016】

【発明の効果】本発明は、上述の如く構成されるので、以下に記載する効果を奏する。

【0017】（請求項1によれば）左右側方片部7、7は、弧状スリット15及び薄肉ヒンジ部6によって、容易に揺動して上方へ折曲がり、板片3が、浴槽の隅部の凹面形状に柔軟に対応して、変形し易く、ムラなく隅々まで美しく洗うことができる。かつ、連結部8の軸部取付部位が補強される。

【0018】さらに、通常は柄部2と洗い本体部1が、非対称揺動規制枢結手段Mを介して、自由に揺動しつつ洗うことができるので、様々な角度の清掃面に対応できる。また、清掃面に強くスポンジ体4を当てて洗うこと

ができる。すなわち、略一箇所に力を集中させることができ、取れにくい汚れを洗うのに好適である。

【0019】（請求項2によれば）柄部2を取外して、スポンジ体4のみでも使用することができるので、至便である。また、スポンジ体4が長時間使用後に、寿命がきたら、スポンジ体4のみを交換すれば良く、経済的である。そして、簡単にスポンジ体4の脱着を行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】斜視図である。

【図2】分解図である。

【図3】断面正面図である。

【図4】断面正面図である。

【図5】断面側面図である。

【図6】断面側面図である。

【図7】断面側面図である。

【符号の説明】

- 1 洗い本体部
- 2 柄部
- 3 板片
- 4 スポンジ体
- 5 中間片部
- 6 ヒンジ部
- 7 左右側方片部
- 8 連結部
- 15 弧状スリット
- 16 補強部
- M 非対称揺動規制枢結手段
- θ 所定鋭角

フロントページの続き

(72)発明者 土井 健史
大阪市浪速区下寺3丁目18番7号 山崎産業株式会社内

Fターム(参考) 2D005 FA00
3B074 AA03 AB01 EE01 EE02